

お盆に思う

“迎え火や父の面影母の顔”

句は古いが感慨は新しい

時を経るほどになつかしさの

さらに深まるのが父母のことである

顧みて孝養の足らざりしが

くやまれてならない

墓前に香華を手向けて

今さらに亡き父母を思うが

“さればとて墓石に布団も着せられず”

“孝行をしたい頃には親はなし”

亡き人が来るといってお盆の日だ

一家むつみて迎えよう

家庭の和合を親は最も喜ぶからだ

お盆を迎えこのことをしみじみ思う